

優占する池にびっしりと浮いているのをよく見かける。ミジンコウキクサは明石市から加古川市にかけての富栄養化した2,3の池から記録している。

淡路島南部と神戸市西区の水路にイボウキクサらしきものが産するが、まだ同定に確信がもてないので今後の検討課題としたい。

8. その他

キショウブが各地の池や川べりに逸出している。オランダガラシは神戸市六甲山中の小河川などでときどき見かける程度である。キシウスズメノヒエは帰化種か否か異論のある種だが、本県にはきわめて多い。その一型である「チクゴスズメノヒエ」はため池への侵入も少な

くないが河川での群生が目につく(図3)。

兵庫県下では問題視せねばならないほど帰化水草が異常繁茂している例は限られる。最も広範に分布するオオカナダモとコカナダモの場合でも、河川や水路では他種を駆逐するような状態には至っていない。コカナダモがため池でふえていることが気がかりだが、これについては今後の様子を見守りたい。帰化水草の繁茂は、水辺環境がどのように維持されているかということにおおいに影響される。そのような視点から今後も帰化水草の消長に注目してゆきたいと思う。

水草の種子の寿命

浜島 繁隆

水草の芽ばえを観察する目的で、採集した種子を水道水を入れた管びんに保存し、窓際に置いている。つぎの年に発芽するものもあるが、中にはなかなか発芽せず休眠を続けるものもみられる。今迄に、2年以上にわたり保存して、発芽のみられたものについての記録があるので、それをつぎに報告し、水草の種子の寿命を知る資料としたい。

図の○印は採集、保存を開始した年を示し、V印は発芽したことを示している。○からVまでの間に散発的に発芽したものもあるが、この図には表わしていない。Vの次の?は保存を継続しているもので、今後、発芽する

可能性のあることを示している。

ここに示した7種の水草では、ヒツジグサの種子が最も長い記録で、10年目にも多数の発芽がみられた。つぎにガガブタとカンガレイで7年経過しても発芽能力を持っていた。しかし、ガガブタについては多数の種子の中で1個発芽したに過ぎない。カンガレイでは、保存以来一度も発芽がみられず、7年目に多数の種子が一斉に発芽を始めた。カキツバタの種子は保存を始めた時からすべての種子が浮遊し、現在もそのまま浮遊しながら散発的に発芽をしている。これは、本種が水による種子散布をする証拠である。

